

婦人と子ども



幼児個性の觀察及取扱法につきて

松本孝次郎

今日この席で保姆諸君に御話をするとを得たのは誠に好い機會である、保育に就いては我々は絶えず我國の保育事業の進歩を希望して居る、このためには或は講演に或は演説に常に我々の希望するところ注文するところを述べて居るが凡て何事も刺戟がなくては發達の出來ぬものであるから、若し我々の平常心がけて希望し注文して居ることが諸君の刺戟となつて幾分か其効果を奏するところがあるならば幸である、本日の如きは幸、好機會を得たのであるから聊希望を述べて多少の御參考にいたしたいと思ふ。

扱、今日諸君に希望するとは兒童の個性につき特に注意すべき一二の問題につきての研究である、或る學說として諸君が研究せらるゝとは保育事業の基礎となるもので、もとより必要なことではあるが、扱實際に當つて見るとなかく學理通りに行かぬことがおはひ、斯く學理と實際とが時々衝突をするのは種々の原因に基くが、其原因中の重要な一つは確かに幼兒個性の相異れるとである、完全なる保育法とは保育の一般原理に適合すると同時に幼兒個性の保育上にも満足と與ふべきものでなくてはならぬ、この一方を缺くものは到底完全なる保育法たることが出来ぬのである、然るに現今保育上又教育上著しく缺けて居るのは個性の研究である、個性に對しては如何なる取扱をなすべきかは實に今日の教育上の問題なので、今日諸君に希望するのは保姆諸君の精密なる觀察によつて幼兒の個性を余程確實に了得し、これに對して最も適切なる保育法を研究せられんとである。

- これより幼兒個性の觀察法を述べようと思ふが、この方法は分類すると左の四通りにわかるゝと思ふ、
- 第一 身体上の状態より個性を觀察する法
 - 第二 精神上的の状態より個性を觀察する法
 - 第三 道徳的性質より個性を觀察する法
 - 第四 教育上より個性を觀察する法
- 以上四通りの觀察法があるが極めて短時間で我希望を述べ終らんがため要點のみをつまんで話さうと思

ふ、

第一、身体上の状態により個性を観察する法。この方法上私が希望するのは現今行はれて居る身体検査の結果をいまま少し教育的に有益にしたたいのである、即ち身長は幾ら体重はいくら、視力は如何、身体

の組織は如何、などいふことがたい一葉の表としてとらるゝ計りでなく、何かに利用したいと思ふが其利用の一として個性観察の上を用ひたいのである、即ち身体各部の發達が一致して居るか、言語は生理上よりの關係なきか、音楽思想と聽覺との關係は如何等を發見するは皆身体上の觀察の主なるものである、

第二、精神上の状態より個性を観察する法、精神上的の觀察より個性を發見する方法は諸君に直接なる

ものが多い、即ち感覺機關が相當の發達をして居るか、又は何等の缺損がなきか等いふ問題で、幼兒が他日發達すると否とは實にこれによりて別けらるゝのである、次ぎに保育上、教育上に於て最も大切なるは兒童の注意状態である、若し注意作用の病的状態について云はゞ種々なるものであるが普通の場合に於て注意作用の種類より幼兒を分つと二種とすることが出来る、今假りに其の一つを感動的兒童と他の一方をば活動的兒童と名づけておかう、感動的兒童とは注意の活き方が極めてのろく容易に他に移らぬ傾向がある、即ち注意の流れが一ツ所に停滞して容易に他に流れ去らぬので、かつすでに感動的兒童と名づくるが如く物事に感動しやすく、心の中に強き感動を起して居てもこれを外部に發表することが極

めて少ない、而し其代りに心の中に其感動の残りゆくとはながかつ強いのでつまり感動の繼續時間が長いのである所謂執念深き幼児とは此の種に屬するものである。

これに反して活動的兒童は其の感動を比較的著しく發表するが感情の繼續時間短かく注意をむくると早さも忽ちにして倦怠しやすい、従つて此種の兒童は注意が外方にうつりやすく今甲事にとりかゝると見るや忽ちにして乙事を營まんとするの傾向を有し、例へば唱歌の時間の如きもはじめ暫時は興味ありげに熱心にうたへど間もなく倦んで或はわるさをなし或は他兒に話しかくるなど注意は忽ち他に轉じて終始専心にうたひ終るををしない、斯の如く唯注意作用の一點のみよりいふも個性に著しき相異がある、斯の如く相異なる個性を有して居る數々の兒童をして各其長を長じ短を補ひ以て完全圓滿なる發達を遂けしめんとは保育上教育上切に我々の希望するところで斯くせんには精細なる個性の觀察を要するのである。

活動性的の兒童は注意作用上よりいへば上述の如く許多の缺典を有せるも活氣ありて常に衆兒の間に於て牛耳を執るの位置に立ち、遊歩運動の際の如き指導者たりやすく且指導者たらしむれば遊戯全般をして滞りなく巧みに終らしむる事が出来る、而し出来るからといひて常にこの種の兒童のみを指導者たらしむるときはこの個性はます／＼一方に偏して到底圓滿なる發達を遂げしむる事が出来ぬ、教育上よりいへば此種の兒童は成べく注意をながく繼續せしめ沈着に事物を考ふるやう導かねばならぬのである。

感動性の兒童は注意が常に停滯しやすから自然のまゝに任せふくときは一事にのみ執着熱中して廣く知識を求むるをせず、従つて知識界の狹隘なるものとなつて去まう、此種の兒童を矯正するにはなるべく注意を他に轉せしむるやう導くのである、且つ其の指導者たらしむるに不適當なる故を以て常に他兒の下に立たしむるときは其個性的缺典をしてますゝ助長せしむるようになるから保育を以て各個人をして完全なる人たらしめんとするの目的ならしめば此種の兒童をして其性質に反して却りて指導者たらしむるを要するのである、遊嬉其他の保育事業をして單に巧を目的とする一種の技術たらしめ兒童に完全なる發達を餘所にするならばいざ知らず、兒童完全の發達を以て目的とする以上は常に其短を補はしめんとつとめなければならぬのである。

以上二種の個性に於て注意作用の上に著しい相違があるが、今小學校に於てこの二種の兒童に同時に文法を教ふるに感動性の兒童は注意が一つ所に停滯するの傾きあるが故に、文法を教ふるにも應用的のを與へて自ら考へしむる方法を以てするよりは寧ろ注入的方法をとり成るべく注意を他にうつらしむるやうにする、活動性の兒童はこれに反してなるべく自ら思考し自ら應用する等深く自ら考ふる法即ちなるべく活動的なる腦をつかふとの多かるべき方法を以て授くるを必要とするのである、斯個人々につき教師のとるべき態度を異にするの必要がある教室に於て盛んに質問を發する兒童は多くは活動性の兒童であるが、これは思考に思考を重ねた結果として疑問を生じたるものではなく活動性を好むといふ

性質より頻りに質問を試るのである、故に教師の答を充分に熟考してこれを他に應用するのは質問せし活動性の兒童にあらざして却りて默然として傍にこの問答をさゝつゝありし感動性の兒童であることが多い、斯く個性に對しては種々なる研究を要するに現今未だ個性に應じたる保育法教育法の缺けて居るのは其一大缺點といふてよろしい、注意作用に次いで注意すべきは指導者たらんを望む幼兒と服従を喜ぶ幼兒との取扱である、種々相異なる許多の幼兒を各別々に訓練せんとは極めて複雑に至りて困難な方法である、故に保育者は第一に幼兒中の指導者を見出しこれに自己の希望を吹き込んで以て他兒をしてこれに服従せしむるの簡便法をとるがよろしい、例へばさわざたてる數多の幼兒を同時に靜肅ならしめんとは甚だ困難なものであるが其うちの指導者を呼び出し十分訓戒を與へて服従せしむるときは他は難なく平穩に歸する如き次第で社會に於ける種々の騷擾も其首領をさへ抑へ得れば他は自ら鎮まるものである。

第三、道徳的性質上より個性を發見する法、この方法に於て一二の希望をいはんに願くは訓育上に於て常に各兒童が如何なる方法にて責めたるときに最も強く感じたるかを洞察し、兒童によりて各適切なる賞罰法を行はれんを望むのである、或兒童は言語を用ゐて戒めんよりは態度によりて戒めん方さゝめおぼさきのあり、これ耳に訴へられんよりは目に訴へらるゝ方効果あるものなり、これに反して或兒童は目に訴へられんよりは耳に訴へられし方強く感ずるものある等兒童によりて賞罰の方法を異にする

を要するのである、其他道德的性質に關しては微細の點につきて注意を與ふる必要がある。

第四、教育上より個性を觀察する法、この方法はいろ／＼あるが今は唯著しく幼稚園に關係あるものゝみを擧げやう、幼兒の個性はまたよく遊嬉の際に觀察し得らるゝものである三才以前の正しき發達をなせる幼兒は物の變化をもて無上の愉快としこの性に適合せる遊びを最もおほくよろこぶものである、彼の「バア」といひつゝしば／＼顔を物かげよりあらはす遊びの如きは大人より見れば何の興味もないとだが、幼兒には其ある時間を隔てて愛やさるゝといふ僅かの變化でさへ非常におもしろく感ずるのである、三才以上になると如何なる點に深き興味をもつかといふに自己の活力を用ゐてなす事、活動力を有するの自覺及び他より追はるゝと等をよろこぶが、これは本能的の嗜好で少年時代には凡て之をよろこぶ、つまり發達の一時期に於てあらはるゝ本能的の愉快である、是に次いで起す愉快は摸倣的愉快でなほこの外に競争的愉快などもあるが幼稚園時代にありてこれを好むは早熟の子で普通の幼兒は未だこれを好むに至らないのが常である其次は物を構成する愉快、集合する愉快美を感ずるによりて起す愉快等で、是等の愉快も幼兒によりて感ずる度合を異にして居るから従つてある兒は摸倣性が發達して居るとかある兒は創造力に富んで居るとかある兒は美的感情が養はれて居るとかいふように各兒の個性を觀察するとが出来るのである、

兒童については以上述べし如く身体上、精神上、道德的性質上、及教育上より充分確實に其個性を調

査し、以て各兒の短を補ひ長を進め以て完全圓滿なる品性を得しめんを要するのである、概していへば今の保育法は個性研究の缺けて居るため幼兒の短所を補ふをなさず、却りて短所を助長せしめ个性的缺典をしていよゝ甚しからしむるの方法をとつて居るの觀があるから、今日この好機會を得たを幸、保姆諸君に對し個性の觀察及其取扱法の改良につき充分の研究あらせられんことを希望せし次第である、

右は四月二十一日、本會總會に於ける演說の大要を筆記せしものなり。

